

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-126	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 717	NEXT 数学 I		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第 2 条に示す教育の目標を達成するために、以下の 4 つを基本方針に据え、確実な数学的教養の育成を目指した。

- 1 「何を」「なぜ」学んでいるか意識することで、内容の暗記にとどまらず、本質的で汎用性のある知識・技能が身に付けられる。
- 2 思考力・判断力・表現力が身に付けられる。
- 3 生徒の主体的な学習を助ける。
- 4 進学する生徒に必要な数学的教養が身に付けられるだけでなく、社会生活で役立てられるような数学的教養も身に付けられる。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	花火の描く曲線に放物線が現れることを提示し、数学と生活の関連に興味をもてるようにした(第 2 号)。	前見返し 1, 2
前付	「高校数学の学び方」として、単に暗記して再現するだけの学びから脱却し、真に深く自主性をもって数学を学ぶための注意点を記載した(第 1 号, 第 2 号)。	6~7 ページ
第 1 章 数と式	品物を最大何個買えるか、どちらが安くなるかなど、日常生活と数学を関連付けて考える場面を設けた。特にチラシから情報を読み取るという、より実生活に近い状況を設定した(第 2 号)。 絶対値を含む方程式や不等式の解について、既習の定義を用いて自ら公式を導出する場面を設けた(第 1 号, 第 2 号)。 古代ギリシャにおける無理数の発見について取り上げ、数学が歩んだ歴史に興味をもてるようにした(第 5 号)。	52 ページ 53 ページ 59 ページ
第 2 章 集合と命題	事象を論理的に表現したり、論理的に証明したりする能力や態度が身につくように配慮した(第 1 号)。	60~83 ページ

第3章 2次関数	1次関数，2次関数だけでなく，一般の関数のグラフの定義を記述し，より一般的な真理を求められるよう配慮した。また，一般の関数のグラフについて平行移動や対称移動を考える場面も設けた（第1号）。 設定された数学の問題ではなく現実の問題を解決する際に，どのようにして数学の問題に落とし込むのか，また，落とし込んだ数学の問題と現実との差異をどのように考えるかなどにも触れ，現実の問題を数学で解決する意義を理解し，そのような態度が身につけられるようにした（第2号）。	89 ページ 100～101 ページ 141 ページ
第4章 図形と計量	車いす用のスロープの勾配について考察する場面を設け，公共の精神が養えるようにした（第3号）。 この章で学んだ余弦定理を三平方の定理の拡張と捉え，定理を拡張する意義を示すことで，自主的に真理を求める態度が養えるようにした（第1号，第2号）。	149 ページ 186～187 ページ
第5章 データの分析	生徒に関するデータを題材にする場合は，男女両方を取り上げた（第3号）。 題材として気温やごみ排出量の実際のデータを取り上げ，我が国の自然環境に興味をもてるようにした（第4号，第5号）。 この章で学んだことを活用して生活に関連した判断をする題材を設けた。また，それと関連して問題解決のプロセスを示すことで，生徒が自ら実際の問題を解決できるようにした（第2号）	192， 210 ページ 191， 201， 215 ページ 217～219 ページ
課題学習	数学 I で学んだ内容を，生活と関連付けたり発展させたりするなどして，生徒の関心や意欲を高める課題を設け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識できるようにした（第1号，第2号，第5号）。	230～239 ページ
総合問題	数学 I で学んだ内容を，生活と関連付けたり発展させたりするような問題を設定し，生徒の関心や意欲を高めるとともに思考力・判断力・表現力を高めていけるようにした（第1号，第2号）。	240～243 ページ
答と略解	意欲のある生徒が自学自習もできるよう，問題・章末問題・総合問題の答と略解を掲載した（第2号）。	244～249 ページ
主な用語	数学用語を用いて表現する際の注意点などをまとめ，自ら表現する活動の助けになるようにした（第2号）。 数学用語の英語表現を掲載し，国際社会で数学を役立てられるきっかけになるようにした（第5号）。	252～254 ページ
後見返し	数学 I で使う中学校で学んだ基本事項をまとめ，わからないことは自分で調べられるようにした（第2号）。 具体的事象に活用する場面で，三角比の近似値が調べられるようにした（第2号）。	後見返し 1 後見返し 2

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

「1. 編修の基本方針」にのっとり、以下の点に特に意を用いた。

1 「何を」「なぜ」学んでいるか意識することで、内容の暗記にとどまらず、本質的で汎用性のある知識・技能が身に付けられる。

学ぶ内容の全体像が把握できるようにした。

(10ページ, 103ページなど)

項目の初めに設けた「ここで学ぶこと」では、既習事項との関連や違いを確認しつつ、その項目で学ぶことを提示し、内容の全体像が把握でき、何を何のために学んでいるのか、生徒自身が意識しながら読み進められるようにした。また、各節の全体像が視覚的に把握できるロードマップをデジタルコンテンツで用意した。

→ **3**

例題の解答を振り返る場面を設けた。

(18ページ, 78ページなど)

例題の解答の後に、その内容を真に理解できているか確認するため、式変形の理由などを説明させる【?】を設け、解答を単に暗記するだけでなく、理解して定着できるようにした。

より汎用性のある記述を採用した。

●関数のグラフ (89ページ)

一般的な関数 $y=f(x)$ のグラフの定義を記述し、数学Ⅱ以降で学ぶ関数を含む包括的な理解ができるようにした。

●不等式の解とグラフ (127ページ)

一般的な不等式の解について関数のグラフと関連付けて解説し、どのような場合の2次不等式も同じ考えで解けることを理解させることで、パターンの暗記に陥らないようにした。

2 思考力・判断力・表現力が身に付けられる。

思考力・判断力・表現力を養うための問題を掲載した。

●深める (23ページ, 135ページなど)

見方を変えて考えたり、内容の正確な理解が必要となったりする問題を本文内に適宜設けた。

●問題 (28ページなど)

節末に設置した問題の最後に、思考力が必要な問題を掲載した。

●総合問題 (240~243ページ)

本文の内容を総合的に活用して取り組む長文の問題を巻末に掲載した。

●Expression, 主な用語 (12ページなど, 252~254ページ)

数学用語を正しく用いて表現する練習を Expression として設けた。また、数学用語を用いて表現する際の注意点を、巻末の主な用語の中に適宜掲載した。

2次関数の最大・最小

ここで学ぶこと

第1節では、2次関数のグラフのかき方について学んだ。関数のグラフを利用すると、関数の値の変化の様子を知ることができる。ここではとくに、関数の最大値、最小値に注目し、その求め方について学んでいこう。

89, 90ページで学んだように、関数の最大値、最小値は、そのグラフにおいて、y座標が最大、最小になる点を調べることで求められる。したがって、2次関数の最大値、最小値を求めたいとき、2次関数のグラフをかくことで求めることができる。

第1節の内容を思い出しながら学んでいこう。

(103ページ)

2 $\sqrt{2}$ が無理数であることを用いて、次の命題を証明せよ。
 $1+\sqrt{2}$ は無理数である。

証明 $1+\sqrt{2}$ が無理数でない(と仮定)すると、 $1+\sqrt{2}$ は有理数である。その有理数を r とすると、 $1+\sqrt{2}=r$ より $\sqrt{2}=r-1$ 。 r が有理数ならば $r-1$ も有理数であるから、この等式は $\sqrt{2}$ が無理数であることに矛盾する。したがって、 $1+\sqrt{2}$ は無理数である。

【?】 $1+\sqrt{2}=r$ を $\sqrt{2}=r-1$ と変形したのはなぜだろうか。

(78ページ)

一般に、関数 $y=f(x)$ のグラフとは、 $y=f(x)$ を満たす点 (x, y) 、すなわち点 $(x, f(x))$ 全体で作られる図形のことである。

たとえば、例4の関数 $y=-x+5$ のグラフは、 $y=-x+5$ を満たす点 (x, y) 、すなわち点 $(x, -x+5)$ 全体で作られる図形である。

(89ページ)

51 「2次関数 $y=-(x^2-2mx-m+6)$ のグラフとx軸の正の部分、異なる2点で交わる時、定数 m の値の範囲を求めよ。」という問題の場合、応用例7の解答の [1], [2], [3] について、下線部を変更する必要があるものはどれか。また、どのように変更すればよいか。

[1] グラフとx軸が異なる2点で交わる。
[2] グラフの軸がy軸の右側にある。
[3] グラフとy軸の交点のy座標が正である。

(135ページ)

3 生徒の主体的な学習を助ける。

生徒が主体的に取り組むための工夫を施した。

●目標の設定 (10ページ, 150ページなど)

各小項目に目標を設定し、何ができるようになるればよいか生徒が意識して学べるようにした。また、目標となる具体的な練習も設定し、その練習が解けたか振り返ることで、目標を達成できたかを生徒自身で把握できるようにした。章扉には目標の一覧も設けた。

●ICTの活用 Linkマーク

教科書の内容に関連した参考資料、理解を助けるアニメーション、生徒自らが考察するためのツールなどのデジタルコンテンツを用意した。インターネットに接続することで活用でき、紙面では表現が難しい動きをとまなうコンテンツもある。生徒がこれらに触れることで理解を深めることができるようにした。

生徒自身で読み進められる工夫を施した。

●ここで学ぶこと → 1

●内容のつながりを意識した記述 (106ページなど)

本文でも、既習事項との関連や違いを意識した記述とし、単発の問題の羅列ではなく、内容の全体像の中での位置づけを理解しながら読み進められるようにした。

●数学独特の表現の補足 (66ページ, 90ページなど)

「集合を求める」「最大値をとる」などの数学独特の表現について脚注で補足し、生徒が読み進める際の助けになるようにした。

●中学既習事項の復習 (44ページ, 144ページなど)

不等号の意味や直角三角形の相似、データの代表値や四分位数など、内容と関連する中学既習事項も記述し、生徒が容易に読み進められるようにした。

4 進学する生徒に必要な数学的教養が身に付けられるだけでなく、社会生活で役立てられるような数学的教養も身に付けられる。

その後の学習や進学後の学習に必要な内容は、本文でしっかりと扱うようにした。

●平方根と式の値 (41ページ)

数学のいろいろな場面で登場する対称式の扱い方が着実に身に付くようにした。

●関数の最大・最小と場合分け (108~109ページ)

例題で取り上げ、その解説で考え方を丁寧に説明し、自分で場合分けをして問題を解く能力が育成できるようにした。

●三角形の内接円と面積 (178ページ)

数学Aで扱う内接円も関連させて扱うことにより、複数の科目を総合した教養が得られるようにした。

A 三角比の相互関係
 三角比の1つの値がわかっているとき、残りの2つの値が求められるようになる。
(p.151 例題 8 練習 9)

(150ページ)

例題 8 θ は鋭角とする。 $\cos\theta = \frac{1}{3}$ のとき、 $\sin\theta$ と $\tan\theta$ の値を求めよ。
例題 9 θ は鋭角とする。 $\tan\theta = 2$ のとき、 $\cos\theta$ と $\sin\theta$ の値を求めよ。

(151ページ)

Link 資料 **Link** イメージ **Link** 考察 **Link** MAP

例題 3 [1] $x=0$ $x=2$ $x=a$ a^2+1
 [2] $x=0$ $x=2$ $x=a$ 1
 [3] $x=0$ $x=2$ $x=a$ a^2-4a+5

(109ページ)

前ページ例題3では、関数の定義域が実数全体であった。
 関数の定義域に制限のある場合も、グラフをかきことで最大値、最小値を求めることができる。

例題 4
 次の関数の最大値、最小値を求めよ。
 (1) $y = x^2 - 4x + 1$ ($0 \leq x \leq 3$)
 (2) $y = -2x^2 + 4x + 5$ ($-1 \leq x \leq 0$)

(106ページ)

三角形の3辺に接する円を、その三角形の内接円という。
 $\triangle ABC$ の内接円の半径を r 、中心を I とすると、 $\triangle ABC$ の面積 S は

$$S = \triangle IBC + \triangle ICA + \triangle IAB = \frac{1}{2}ar + \frac{1}{2}br + \frac{1}{2}cr$$
 よって、等式 $S = \frac{1}{2}r(a+b+c)$ が成り立つ。

(178ページ)

本文外の「研究」や「発展」を学ぶことで、更に充実できるようにした。

● 3次式の展開と因数分解 (26~27ページ)

数学Ⅱ以降につながる内容としてしっかり扱った。

● 絶対値と場合分け (54~55ページ)

絶対値の定義にしたがってきちんと場合分けをして、やや難しい方程式や不等式が解けるようにした。

● $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明 (79ページ)

背理法を用いたやや程度の高い証明を扱い、論証力をより伸ばせるようにした。

● 「すべて」と「ある」の否定 (82ページ)

大学の数学にもつながる内容として「すべての x について p 」「ある x について p 」という形の命題とその否定も扱った。

● 放物線と直線の共有点 (124~125ページ)

数学Ⅱ以降につながる内容としてしっかり扱った。

発展 3次式の展開と因数分解 数学Ⅱの内容です。

ここまで、2次式を中心に展開と因数分解を考えてきた。ここでは、3次式の展開と因数分解を考えてみよう。

$(a+b)^3$ を展開すると、次のようになる。

$$\begin{aligned} (a+b)^3 &= (a+b)^2(a+b) \\ &= (a^2+2ab+b^2)(a+b) \\ &= (a^2+2ab+b^2)a + (a^2+2ab+b^2)b \\ &= a^3+2a^2b+ab^2+a^2b+2ab^2+b^3 \\ &= a^3+3a^2b+3ab^2+b^3 \end{aligned}$$

$$\begin{array}{r} a^2+2ab+b^2 \\ \times) a+b \\ \hline a^3+2a^2b+ab^2 \\ a^2b+2ab^2+b^3 \\ \hline a^3+3a^2b+3ab^2+b^3 \end{array}$$

(26ページ)

生活に数学を役立てる場面や、その準備となる場面を設定した。

● 1次不等式の応用 (52ページ)

現実社会で与えられる情報により近い形として、チラシから情報を読み取って数学の問題として解決する場面を設けた。

● データの分析 (188~229ページ)

外れ値の解釈や相関関係と因果関係、散布図に表す重要性など、実際にデータを分析する際に気を付けることを随所に取り上げた。

● データの分析を活用した問題解決

(217~219ページ)

データを分析して通学手段について判断する、という具体的な問題を解決する場面を設定し、統計を学ぶ意義が直接的に伝わるようにした。

現実の問題では、様々な形で情報が与えられる。次のような場合でも問題が解決できるだろうか。

練習 61 案内状を作ることになったので、A店とB店の製作費を調べたところ、下のチラシのようであった。B店で作るよりA店で作る方が安くなるのは、何部以上作る時か。

A店

- ・100部までは一律 5000円
- ・100部をこえた分は、1部につき 40円

連絡先 0△△-7××-24●●

B店 基本料金 4500円! 安い!!


基本料金のみで100部まで作成できます。それをこえた場合は、こえた分について1部43円で承ります。

連絡先 □□@▲▲.jp

(52ページ)

ここまで学んだ様々な数値や図などを用いて、次の問題を解決することを考えよう。

ある高校に通うAさんは、普段の通学手段をバスにするか自転車にするか迷っている。データを集めて分析することで、どちらの通学手段にするか判断してみよう。



(217ページ)

5 ユニバーサルデザインに関する取り組み

● 色づかい

色覚の個人差を問わず多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。

● 文字

本文等に、多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字(ユニバーサルデザインフォント)を使用した。横画が通常のフォントより太く、視認性・可読性に優れている。

通常のフォント

るような実数

ユニバーサルデザインフォント

るような実数

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-126	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 717	NEXT 数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 一般的な留意点

- 1 数学的教養や学習態度が多くの生徒の身に付くよう、できる限り平易な例示による明解な説明とし、段階を追った論理の飛躍がない展開とする。
- 2 生徒の学習が、内容の暗記や例題の真似に偏ることのないようにする。
- 3 学習内容の全体像や前後の内容とのつながりを随時示すことで、生徒が単発の問題の羅列と感じないようにする。

2 教科書の特徴

- 1 基本的な概念や原理・法則について体系的な理解を深めることができるよう、中学校との接続ならびに各学習事項の体系にギャップが生じないよう十分な配慮をした。特に、内容どうしのつながりが読んで理解できるよう心掛けた。
- 2 用語・記号の定義や本文の説明は、単純平明で理解しやすいものにする一方で、できる限り汎用性のある記述になるよう心掛けた。
- 3 例や例題はできる限り基本的な内容に絞り、理解が容易になるようにした。また、既習内容の組み合わせで解ける問題は例示せず練習問題としたり、例題の解答を振り返って理解を確認する問いを設けたりして、生徒の学習が内容の暗記に偏らず、本質的な知識・技能を理解して身に付けられるよう配慮した。
- 4 図版を多用したり、レイアウトを工夫したりして、視覚的な面で理解の助けになるようにした。また、生徒が親しみをもって学習できるよう、色刷りの図版や写真を豊富に使うなどして、生徒の感性に近づける工夫をした。
- 5 数学的論拠に基づいて判断する態度が育つよう数学的な厳密さにも配慮した。また、本文の説明や展開における表現・表記の不統一を排除し、例題や応用例題の解答も論理的飛躍が生じないように配慮した。
- 6 課題学習をはじめ、興味をもって主体的に学べるような題材を選ぶことで、生徒が数学の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度が養えるようにした。
- 7 余力のある生徒のため、高等学校学習指導要領における数学 I の範囲を超えた内容のうち適切と思われるものを、発展で扱うようにした。
- 8 色覚の個人差を問わず多くの人が見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。また、本文の和文書体として、多くの人が見やすく読みまちがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を用いた。

3 教科書の構成要素

各章の構成

[ここで学ぶこと] その項目で何を学ぶかを、既習事項と関連付けてまとめた。

[目 標] 小項目ごとに身に付けるべき内容を、具体的な「練習」の番号とともに示した。

[例 題] 本文の内容を理解するための導入例や計算例である。

[例 題] 学習した内容を利用して解く、重要で代表的な問題である。「解答」や「証明」では模範解答の一例を示した。最後に **【?】** として解答の内容に関する問いを載せてあり、それに答えることで、解答をただ読んだり真似したりするだけでなくならず、自然に例題を深く理解できるようになる。

[応用例題] やや発展的な問題である。「解答」の前に、問題を解くためのポイントや「考え方」として載せた。例題と同じく **【?】** を載せている。

[練習] 例、例題、応用例題などの内容を確実に身に付けるための練習問題である。

[深める] 練習の中でも、少し見方を変えて考える必要がある問題や、内容の正確な理解が必要な問題である。内容の深い理解に役立つ。

[Expression] 正しい数学用語で内容を表現する練習である。

[まとめ] ある程度のまとまりで、そこで学習した内容をまとめた。

[問題] 各節の終わりにあり、その節で学んだ内容を身に付けるための問題である。関連する内容について、本文の参照ページを示した。最後には思考力を要する問題も掲載している。

[章末問題] A, B に分かれていて、A はその章の内容の復習問題、B は総合的な復習と応用問題である。

[研究] 本文の内容に関連するやや程度の高い内容である。省略して進むこともできる。問題や章末問題で研究に関する内容を扱う場合は **◆研究** を付した。

[発展] 数学の学力が高い生徒の興味・関心を惹くため、高等学校学習指導要領における数学 I の範囲を超えた内容を取り上げた。

[Column] 数学の面白い話題や身近な話題、学習内容を深める話題を取り上げた。

巻 末

[課題学習] 本文の内容に関連する興味深い事柄について、学習者が主体的に取り組めるいくつかの課題とともに取り上げた。

[総合問題] 思考力・判断力・表現力を要する総合的な問題である。

[主な用語] 本書に登場する主な数学用語と、その英語表現を載せた。また、数学用語を用いて表現する際の注意点も適宜載せた。

インターネットへのリンクマーク

この教科書に関連した参考資料、理解を助けるアニメーション、活動を効果的に行うためのツールなどが利用できる目印である。

インターネットに接続することで活用できる。



4 各章において配慮した点

第1章 数と式 式の計算／実数／1次不等式

展開の公式，因数分解，根号を含む式の計算，不等式などでは，まずは中学の既習事項から導入し，段階を追って応用的な内容に取り組めるようにした。なお，応用的な内容を取り上げる際にも，より平易な計算になるように配慮した。

第2章 集合と命題

この章の内容は指導する時期が様々であることから，指導の便を考慮して独立した章とした。内容面では，集合の基本事項や論理的な証明法の基礎が習得できるようにした。特に，集合の性質と条件・命題の性質を常に対比させることで，本質的な理解を促すようにした。また，この章の内容は理解しにくい生徒が多いと考えられるため，既習の連立不等式などに関連させるなどして理解しやすくなるよう配慮した。

第3章 2次関数 2次関数とグラフ／2次関数の値の変化／2次方程式と2次不等式

具体的な2次関数について対応表を作って，放物線の x 軸方向の平行移動， y 軸方向の平行移動の概念を説明した。一方，関数のグラフや方程式・不等式との関係については，2次関数に限定しない汎用性のある記述を心掛け，今後様々な関数を学んでいくための基礎となるようにした。

第4章 図形と計量 三角比／三角形への応用

正弦・余弦・正接については，直角三角形における2辺の長さの比ということで，その定義を同時に取り上げて，不自然さをなくした。また，三角比の相互関係は，まず鋭角について示し理解を容易にした。空間図形は後半にまとめて扱い，平面で正弦定理・余弦定理の演習に慣れた後で取り組めるように工夫した。

第5章 データの分析

全体として，生徒が実際にデータを分析する場面を想定し，そのために必要な内容を学習する，という展開になるよう心掛けた。例えば，度数分布表，ヒストグラム，代表値，四分位数など，中学校で学んだ内容も分析するときにも有効であるため，丁寧に取り上げた。また，外れ値の解釈や相関関係と因果関係，散布図に表す重要性など，実際にデータを分析する際に気を付けることを随所に取り上げた。

課題学習

さまざまな運用を考慮して，巻末にまとめて取り上げ，1つのテーマに対して複数の課題を設定した。各テーマの最後にはある程度自由度のある「まとめの課題」をおき，総合的なレポート課題としても使えるようにした。方程式・不等式と関数のグラフの関係や三角形の決定条件など，既習内容を発展させ，数学の内容そのものを深める課題を中心に取り上げた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	(1) 数と式 ア(ウ), イ(イ) ア(ア), イ(イ), 内容の取扱い(2) ア(エ), イ(ウ) (エ)	8～59ページ	19
第2章 集合と命題	(1) 数と式 ア(イ), イ(ア)	60～83ページ	8
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と 2次不等式	(3) 二次関数 ア(ア), イ(ア)(イ) ア(ア)(イ), イ(ア)(イ) ア(ウ), イ(ア)(イ)	84～141ページ	28
第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	(2) 図形と計量 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ), 内容の取扱い(3) ア(ウ), イ(ア)(イ)	142～187ページ	20
第5章 データの分析	(4) データの分析 ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ)(ウ)	188～229ページ	11
課題学習	[課題学習], 内容の取扱い(4)	230～239ページ	4
		計	90

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-126	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 717	NEXT 数学 I		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ 数
26, 27	3次式の展開と因数分解	1	(1) 数と式 ア(ウ), イ(イ)	2
42	2重根号	1	(1) 数と式 ア(ア), イ(イ)	1
82	「すべて」と「ある」の 否定	1	(1) 数と式 ア(イ), イ(ア)	1
124, 125	放物線と直線の共有点	1	(3) 二次関数 ア(ウ)	2
179	ヘロンの公式	1	(2) 図形と計量 ア(ウ), イ(ア)	1
223	仮説検定と 反復試行の確率	1	(4) データの分析 ア(ウ), イ(ウ)	1
234, 235	方程式・不等式と関数の グラフ	1	(3) 二次関数 ア(ウ)	2
238, 239	データの推測	1	(4) データの分析 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ)	2
合 計				12

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容